

平成 28 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	萌芽型
事業名称	キャリア教育/支援における新たな学びの仕組み
取組代表者名	学生・キャリア支援センター 副センター長 作田 正明
担当者名	学生・キャリア支援センター センター長 高崎 みどり
	学生・キャリア支援センター 准教授 中川 まり
	学生・キャリア支援センター 特任講師 川端 由美子
	学生・キャリア支援センター アソシエイト・フェロー 服部 典子
	学生・キャリア支援課 課長 富山 弘
	学生・キャリア支援課 副課長 脇 紀夫
	学生・キャリア支援課 係長 片桐 篤

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

【目的】

本事業は、中期計画28年度計画「キャリア支援に係る体制の整備」【K15】に関連するものであった。目的は、キャリア教育・キャリア支援活動において、ピア・サポートならびに他大学、産業界との連携活動を通じて、学生が自律的にキャリアデザインを実現する力を育成することである。

【具体的実施内容】

本事業は本学がキャリアデザインプログラムの中核として掲げるキー・コンピテンシーの「自律的な活動」と「多様な社会集団との協働（ネットワーク力）」の育成に特化している。教職員が仕組み作りをサポートした上で学生が主体となり、相互にキャリア支援・就職活動支援をするためのピア・サポート組織の設立・運営を行った。

実施時期と活動内容は次の通りである。

4月～6月 活動計画作成とコアメンバーの募集

- ・学生・キャリア支援センターにおいて実施内容の計画とコアメンバーの募集を行い、3名のコアメンバーを決定した。（文教育学部4年1名、理学部4年1名、生活科学部4年4名）

7月～9月 参加メンバーの募集とコアメンバーによる具体的な活動計画作成、教職員による協力企業への依頼

- ・参加メンバーを募集し、11名の学生がメンバーとして参加した。参加メンバーには留学生、障がいをもつ学生なども含まれる。
- ・コアメンバー3名による活動計画として、OG懇談会と内定者懇談会を計画した。
- ・教職員2名が、学生主体のキャリア支援行事への趣旨説明とご協力をお願いするために4社の企業訪問を行った。

## 10月～12月 行事の準備・実施

- ・ピア・サポート全体キックオフ(10月4日)実施
- ・AA2名が着任し、実執行事の準備をサポートしている。
- ・学生がOG懇談会の打ち合わせのための企業訪問を行った。  
11月11日(金)、11月15日(火)、11月16日(水)、11月16日(水)
- ・内定者懇談会を実施(学生が司会、運営 職員がサポート)  
第1回 11月25日(金)協力内定者3名、参加学生12名、第2回 11月29日(火)協力内定者5名、参加学生8名、第3回 12月8日(木)協力内定者4名、参加学生20名
- ・OG懇談会を実施(学生が司会、運営 職員がサポート)  
第1回 12月5日(月)参加学生11名、第2回 12月8日(木)参加学生7名、第3回 12月13日(火)

## 1月～3月 振り返りと報告書の作成

- ・学生、教職員が分担執筆し、『平成28年度お茶の水女子大学学内教育GPプログラム事業(萌芽型)ピア・サポート事業報告書』(総46ページ)としてまとめた。

### 【効果と意義】

本事業が大学全体に及ぼす効果として、活動内容を踏まえてまとめる。本事業では、キャリア支援にピア・サポートを取り入れることによって、学生間に自律性、ネットワーク力が波及することを効果として期待した。もともとコアメンバーになった3名の学生は、「就職活動を通じて、お茶大は縦の繋がりが少ない」(理学部4年)ことを問題意識として持っていた。そして今回の事業を学生に持ちかけたところ、その問題意識が原動力となり、13名の参加学生は、コアメンバーを中心に、教職員の助言を得ながらもネットワーク化し、自律的に活動することができた。こうした活動の中で、リーダーシップ、コミュニケーション力および協働力を高め、発揮したことが第一の成果である。

またピア・サポートメンバーの中での先輩と後輩との間での学びも、学生が求めていたことであり、第一の成果につながる。さらにメンバーではないが、内定者懇談会やOG懇談会に参加した学生たちも、ピア・サポートメンバーの活動を実際に見ることで、問題意識の解決のために積極的に取り組むことの意義を学んだであろう。以上のことから、期待していた学生間における自律性、ネットワーク力が波及することは波及効果として今後に期待できる。

第二の成果は、OGや人事担当者との交流によるものである。社会人とのコミュニケーションを通じて、参加学生の多くは職業観や就業観を得ることができた。さらに産業界でのお茶大OGの活躍を身近に知ることによって、お茶大生としての自信をつけ、今後のキャリア形成に向けた具体的な道筋を考えるきっかけになっている。

そしてお茶大全体においても、ピア・サポートメンバーに加え、OG懇談会に出席した学生が、お茶大生の先輩との直接的な交流で得た情報を仲間と共有し、自身の将来像をシミュレーションし、キャリア形成に役立ててくれることが波及効果であり、これは十分に期待できると考えている。

そして平成29年度以降も、このキャリア支援における学生のピア・サポート活動が平成28年度の1～3年生の参加学生によって、ネットワーク化され、自律的に引き継がれていくことが何よりの大きな成果である。

## 2. 今後、申請を予定している競争的資金

本経費は、外部の競争的資金等を獲得するための準備経費として助成しました。今後、競争的資金の申請を予定している場合は、資金名を記入してください。

平成 29 年度学内 GP (萌芽型) 「キャリア支援における新たな学びの仕組み」として申請し、50 万円が交付されました。学外の競争的資金の申請は予定しておりません。